



岐阜県

長野県

43犬山城

149小牧山城址

44名古屋城

愛知県

愛知県

150古宮城址

45岡崎城

46長篠城址

三重県

静岡県

151吉田城

大垣城

岐阜

高山本線

大牧線

岩村城跡

谷汲尾西線

名古屋

豊田

四日市

名鉄常滑線

東海道新幹線

武豊線

岡崎

E1A

西尾

海海線本線

豊川

高

三河湾

田原

東海道新幹線

遠鉄電車

名鉄名古屋線

伊勢湾

42

42

23

19

21

16

19

11

3

4

1

1





# 43 犬山城

--- 100名城 ---

2019.1.8



犬山城は、1537年に建てられ、天守は現存する日本最古の様式です。信長・秀吉・家康が奪い合い、歴史の荒波を生き残った、国宝の犬山城です。また「現存天守12城」[FB-004丸岡城でご紹介]のひとつでもあります。

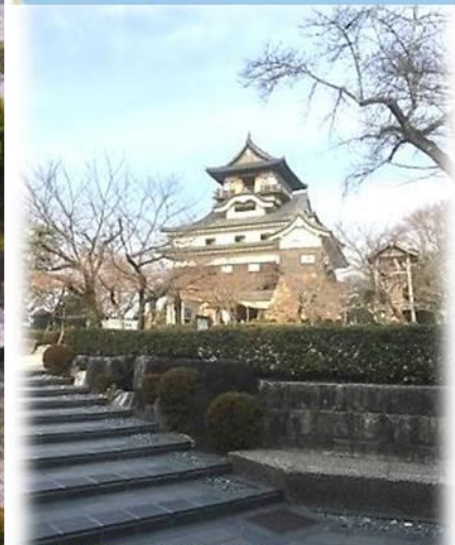
天守が国宝指定された5城のうちの一つであり(他は姫路・松本・彦根・松江各城)、さらに日本で最後まで個人が所有していた城(2004年まで個人所有)でも有名です。



犬山へは約30余年前に子供を連れて明治村に遊びに来て以来です。ここはからくり人形が有名で、犬山祭の山車からくりや座敷からくりがあり、人形が茶碗を運んでくる様子など実際に見たいものです。



空撮 (HPより)



城とまちミュージアム (文化史料館)



神木「大杉様」



# 44名古屋城

--- 100名城 ---  
2019.1.8



ここから愛知県です。最初は何といても尾張名古屋城ですネ。  
名古屋城への登城は3回目、今回(2019.1.8)はスタンプ押印のみできました。  
1回目(2016.4.1)は娘の海外転居時羽田見送りの帰り、名古屋途中下車で見学。  
2回目(2017.1月?)は福井のスーパー懸賞バスツアーでお母ちゃんと来ました。

## 名古屋城



3D映像 (DigitalDaiku)



2016.4.1



1回目の時の編集保存のものです。



本丸(1931)中日新聞社



発掘時写真

1回目の時の編集保存のものです。

### 『名古屋城こぼれ話』

尾張名古屋は城でもつ」とは、誰が言い出した言葉かは定かではありませんが、「伊勢は津でもつ、津は伊勢でもつ 尾張名古屋は城でもつ」と三重県伊勢地方の民謡「伊勢音頭」にも歌われている有名なフレーズです。... 従って、この言葉は、「尾張の名古屋は名古屋城のおかげで保つ、つまり繁栄している。」という意味になります。



一般公開された本丸御殿



戦災後の名古屋城



# 45 岡崎城

--- 100名城 ---

2020.3.21



別名: 岡奇城(古文書)、龍燈山城、龍城

おかぎ りゅうとうざん りゅうじょう

元は、龍頭山の砦として三河国仁木氏の守護代であった西郷頼頼(つぎより)、そして、その子頼嗣が北方に対する防御として築城したものである。当時は、龍燈山城と呼んだ。それを、松平清康が西郷信貞から奪い取り改修拡張整備したものが岡崎城である。岡崎城は当初、「岡奇城」と記された。



FB - 054

## 岡崎公園 案内図



破却前の岡崎城天守の古写真



# 46 長篠城

--- 100名城 ---

2020.3.22



FB-056



1575年の「長篠の戦い」(又は・長篠・設楽原の戦い)は長篠城をめぐる激しい攻防戦で知られる。長篠城はこの地域の交通の要衝、寒狭川カンサカワ(現「豊川」)と大野川(現「宇連川」ウレガワ)が合流する場所に突き出した断崖絶壁の上であり、自然に守られた天然の要塞であった。南や東西から見れば断崖絶壁上の「山城」ですが、北側から見た姿をもってして「平山城」に分類されることもあります。

レンタカーで午前中は古宮城跡を巡り、そのあとここ長篠城跡にやってきました。歴史的には「長篠の戦い」は有名ですが、内容をおさらいしますと、三河国長篠城をめぐる、3万8千の織田信長・徳川家康連合軍と、1万5千人の武田勝頼の軍勢が戦った合戦である。合戦での戦術で有名なのが「鉄砲の三段撃ち」ですね。今でもこの地では「長篠合戦のぼりまつり」で地元観光になっていることです。



歴史を歩いて観ませんか!

巨大な長篠合戦屏風のコピー展示品



長篠合戦のぼりまつり 火縄銃の実演

新発見!! 大正14年(1925)・長篠合戦戦没者350年祭の「模擬戦」  
いままで文字としての記録は有ったが写真の記録は初めて



長篠合戦のぼりまつり 本丸跡に立つのぼり旗



明治時代に開業した鉄道による城址分断





# 149 小牧山城

--- 続100名城 ---

2019.1.8



小牧山城は美濃攻めに向け織田信長が1563年頃に築城・移住した山城。小牧山を拠点に美濃の斎藤氏を攻め続け、築城から4年後の1567年には美濃稲葉山城が陥落。信長はそのまま稲葉山城あらため岐阜城に居城を移し、信長時代の小牧山城は廃城となった。1584年には「小牧長久手の戦い」が起こると家康はここ小牧山を改修して堅固な陣地とした。昭和2年になって軍事演習が行われたきっかけで徳川家が国に寄付、以後 国史跡となった。山中には土塁、空堀、曲輪跡などが多く残り、発掘調査が続けられています。



FB - 053

小牧市へは、昔叔母夫妻がこの小牧に中華料理店を構えていた時に、夏休み、福井への帰省途中に寄り道をして、厚かましくも家族全員遊びに行っていた次第です。当時は小牧山のお城は知っていたのですが興味がなかったので見学していません。私はというと、おじさんと囲碁三昧でした。

今回改めて見ますと、小牧山全体がお城と城下町をなしており、「麒麟がくる」でのお城形態が伺えます。

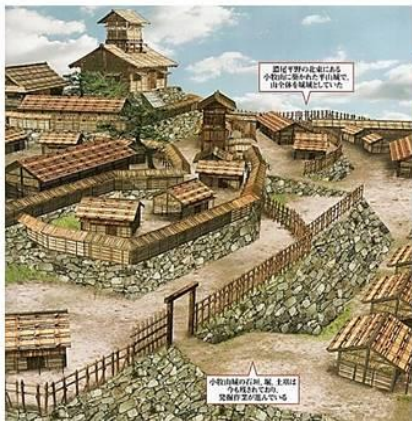
小牧山城歴史博物館



小牧山(城) Map



発掘現場



登録バッジ

続日本100名城

さくらの名城めぐり



織田信長

織田信長ゆかりの城めぐり

愛知県観光協会



# 150 古宮城

ふるみや

--- 続100名城 ---

2020.3.22



戦国時代に甲斐武田氏が三河進出の拠点として築いた中世山城。

小山の周囲を深い堀切で囲み、内部は大堀切で東部と西部に分かれる。西部は多重の堀切が囲む、まさに巨大な土の要塞。東部は巨大曲輪。西部は、主郭である東部の丸型馬出のようにも見えます。

写真に有るように小高い丘陵地(標高30m)全体に張り巡らされた縄張がほぼ完全形で残存しています。大手門辺りが神社の鳥居となっています。歴史の小径Mapを見ると、古宮城を囲むように幾つものお城があり、周囲は東西4Km・南北2Kmに集約(他にはない珍しい密集地)しており、まさに緊迫した時代であったことが伺われます。ここでいつも思うのが住民の暮らし・思いなどどう生きてきたんだろうと思います。

この古宮城跡は交通の便が悪く、吉田城跡のある豊橋市を拠点に長篠城跡も加えレンタカーで廻りました。

その場所に到着するも、いろんな城址案内看板がありますが外見には所在が全くわからず、スタンプ押印の作手歴史民俗資料館で場所を教えてもらいようやくたどり着きました。

樹の乱立のため、提供された縄張図がなければその所在すら分からない状態です。しかしまさに土の要塞です。

## 戦国ロマンを胸に“歴史の小径”へいざ出陣!



当時は周囲は沼地で、沼にぽっかり浮かんだ小山の上に築かれていた。標高30m。



ご神木前にて



